



第 9 回年次大会（京都大会）を開催致しました（御礼）

【JSDT 第 9 回年次大会（京都大会）オンライン開催】

8 月 10 日、11 日の日本デジタル教科書学会第 9 回年次大会（京都大会）オンライン開催は、皆様のご参加、ご発表によりすばらしい会となりました。本大会には 400 名を越える方からのご参加をいただきました。また、36 件の研究発表をしていただきました。



京都大学での本部の様子

研究発表では、プレゼン画面を共有するだけではなく、Zoom のチャット機能も使用しながら行いました。チャットに入力された質問・意見と質疑応答の時間に出された質問・意見を取り入れながら、発表内容についての意見交換が上手に進められていて、これからの発表の在り方ではないかと感じました。発表内容は例年通り、幅広いものでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校等におけるオンライン学習に関わるものも多く、今後の参考になるものでした。

全体ワークショップは、京都大学教授の西岡加名恵先生と大会実行委員長の久富望先生による「ICT 活用における学力の質を検討する－パフォーマンス評価の視点から－」でした。パフォーマンス課題の考え方、それに関わる逆向き設計論、本質的な問いなどの説明の後に、実際に教科・分野別にパフォーマンス課題を考える活動を行いました。実際の活動を通して、パフォーマンス課題についての理解を深めることができました。

基調講演は、京都大学准教授の石井英真先生による「コロナ禍の先に『公教育のバージョンアップ』を構想する」でした。具体的な事例を基に今後の教育の在り方を示してくださいました。コロナ後は、元に戻ろうとするのではなく、課題に向き合い変えていくことが必要であり、重要であることがよく分かりました。その中では、成熟した ICT 環境を目指していく必要があり、本学会として取り組むべきことについての示唆もたくさんいただきました。

本年度の若手優秀賞は、奈良県王寺町立王寺小学校の後藤壮史氏でした。発表題目は「WEB システムを基盤とした教員研修の一提案－Society 5.0 時代の『学び続ける教員』の育成を目指して－」です。また、若手奨励賞は、東北大学大学院情報科学研究科の安里基子氏でした。発表題目は、「小学校第 5 学年社会科の教科書で用いられているグラフの表現形式による分類」です。どちらの研究も大変質が高く、興味深いもので、今後の研究の発展を期待しています。

協賛会員である企業の皆様からは、PR 動画を作ってください、研究発表のそれぞれのセッションの前に放映させていただきました。どの動画もすばらしく、オンライン開催のためにご協力をいただけたことをありがたく思います。

今回、オンライン開催ということで、未知の部分も多かったのですが、オンラインならではのよさを感じることができました。研究発表のセッション前後での発表者、参加者のやりとりは、とても和気あいあいとしていて、オンラインであっても本会が交流の場としても活用していただけたのではないかと感じました。

大会本部では、京都大学の大会スタッフみなさんが本当に一生懸命に作業をしてくださいました。会の開催をしっかりと支えてくださり、感謝しております。また、事前の発表動画の提出と発表時の大会本部からの再生、発表資料の提出と参加者による閲覧などもオプションとして用意するなど、オンラインならではの活用の可能性も強く感じました。

来年こそは、京都大学でのオフライン開催ができることを願って準備を進めたいと考えています。皆様、大変ありがとうございました。

日本デジタル教科書学会会長

長谷川 春生

第9回年次大会（京都大会）大会実行委員長

久 富 望

第9回年次大会（京都大会）において若手優秀賞，若手奨励賞を授与いたしました

本学会では、若手の実践者や研究者を発掘し、その活動を後押ししようと、年次大会において若手優秀賞，若手奨励賞の授与を行っています。

この賞は、35歳以下の筆頭者を対象に年次大会へ早期締切までに投稿された研究の中から、特に優れた研究を行った方に対して贈られます。

受賞者の発表は、大会初日に行われ、坂田編集委員長と島田副会長から講評がありました。

受賞された皆様、おめでとうございます！！

若手優秀賞

受賞者：後藤 壮史 氏（奈良県王寺町立王寺小学校）

WEB システムを基盤とした教員研修の一提案

-Society 5.0 時代の「学び続ける教員」の育成を目指して-

若手奨励賞

受賞者：安里 基子 氏（東北大学大学院情報科学研究科）

佐藤 正寿（東北学院大学文学部） 高橋 純（東京学芸大学教育学部）

堀田 龍也（東北大学大学院情報科学研究科）

小学校第5学年社会科の教科書で用いられている グラフの表現形式による分類

これらの賞の選考方法は次のとおりです。

- ・学会理事から5名の選考委員を選出し、審査を行います。
- ・発表予稿に対して「新規性」「論理性」「有用性」「将来性」の4観点について、それぞれ5点満点で選考委員が採点します。採点時には、著者名・所属を除いた予稿を用います。
- ・上記の合計点の上位3名を受賞候補者とします。（今年度は辞退をされた方がおられたので、2名を受賞候補者としました。）
- ・大会初日の午前に受賞候補発表セッションを設け、候補者にご発表いただきます。その後、選考委員の合議により、最も優れていると考えた候補者に「若手優秀賞」を、若手優秀賞に続き優れていると考えた候補者に「若手奨励賞」を授与します。

2020 年度理事体制のご報告

2020年8月11日の総会において報告されました2020年度の理事体制について、ご報告をさせていただきます。

会 長	長谷川 春生（富山大学大学院）
副会長	片山 敏郎（新潟市教育委員会） 島田 英昭（信州大学学術研究院教育学系）

■研究委員会

委 員 長	広瀬 一弥（亀岡市立東別院小学校）
副委員長	佐藤 和紀（信州大学教育学部）
委 員	岩山 直樹（富山大学人間発達科学部附属小学校）
（50音順）	内田 明（佐賀市立若楠小学校） 杉本 真樹（国際医療福祉大学大学院） 竹中 章勝（奈良女子大学 金城学院大学 桃山学院大学） 松下 慶太（関西大学）

■編集委員会

委 員 長	坂田 陽子（愛知淑徳大学）
副委員長	島田 英昭（信州大学学術研究院教育学系）
委 員	市原 靖土（大分大学教育福祉科学部）
（50音順）	寺尾 敦（青山学院大学） 森下 孟（信州大学学術研究院教育学系）

■広報委員会

委員長	稲田 健実（福島県立平支援学校）
副委員長	小林 祐紀（茨城大学）
委員	一戸 信哉（敬和学園大学）
（50音順）	大関 正人（新潟市立新潟小学校）
	加藤 悦雄（大妻中等高等学校）
	反田 任（同志社中学校・高等学校）
	平本 将司（広島市矢野公民館）
	水越 綾（杉野服飾大学）
	足立 賢治（島根県情報教育研究会）

■事務局

事務局長	久富 望（京都大学教育学研究科）
副事務局長	杉山 一郎（燕市立燕西小学校）
事務局員	上田 昌史（京都産業大学）
（50音順）	大滝 徳久（新潟市立新潟小学校）
	後藤 正樹（早稲田大学教育学研究科）

■大会実行委員会

実行委員長	広瀬 一弥（亀岡市立東別院小学校）
事務局長	久富 望（京都大学教育学研究科）
委員	長谷川 春生（富山大学大学院）
大会アドバイザー	上田 昌史（京都産業大学）
大会アドバイザー	反田 任（同志社中学校・高等学校）

■監事

	反田 任（同志社中学校・高等学校）
	林 俊行（新潟市立五十嵐小学校）

■顧問（50音順）

	岩居 弘樹（大阪大学）
	上松 恵理子（武蔵野学院大学）

■ICT CONNECT 21 担当

担当顧問	上松 恵理子（武蔵野学院大学）
担当理事	高瀬 浩之（松戸市立第二中学校）

■ 研究グループの報告について

研究テーマ

タブレットを活用したハザードマップ作り – 「災害の記憶」を継承するために –

研究代表者 八田 友和（クラーク記念国際高等学校）

菊地 健也（クラーク記念国際高等学校）

伊地知栄美（クラーク記念国際高等学校）

星野太郎（クラーク記念国際高等学校）

井上 翔太（クラーク記念国際高等学校）

森田 真史（花園大学 大学院生）

本研究は、震災モニュメントに着目した防災教育の在り方を、ICT 機器を活用した実践事例の紹介を通して提案することを目指している。具体的には、生徒および教員がもっているタブレット端末に着目し、それらを活用した防災教育を行ったので、その概要を整理・提示する。本研究で扱う震災モニュメントは、大きな災害が発生したのち、その被害や教訓を後世に伝えるために作られる石碑などのモニュメントを指し、筆者の勤務校がある、兵庫県芦屋市には、阪神・淡路大震災に関係する多数の震災モニュメントが確認されている。それを受け、震災モニュメントの名称や場所等の情報を組み込んだデジタル防災マップの作成に取り組んだ。勤務校の防災部（部活動）が活動の主体となり、通年をかけて実践した。本実践は、「地域のフィールドワーク」「震災モニュメント調査」「デジタル防災マップの作成」の3段階に大別できる。まず、地域のフィールドワークにおいて、防災設備や危険箇所の確認を行い、震災モニュメント調査では、市内の小・中学校に所在する震災モニュメントの観察・聞き取り調査などを行った。そして、それまでの活動で得た情報を google map にまとめ、デジタル防災マップの作成を行った。その結果、情報を得るためだけの防災マップではなく、震災モニュメントと防災設備の立地場所を視点に、「考える防災マップ」になった点に留意したい。本研究の成果として、①阪神・淡路大震災に関係する震災モニュメントと、地域の防災設備の設置場所を兼ね備えたデジタル防災マップを作成することができた点、②アクティブ・ラーニングの視点から防災教育を捉え直し、実践を行った点、が挙げられる。一方で、①継続した活動を行っていく点、②系統的・体系的な実践を行う点、において課題が残った。今後は、部活動がもつ特性をよく理解したうえで、防災教育の理論や方法論にも依拠した実践を行っていきたい。

最後になりますが、本研究を行う際、「日本デジタル教科書学会研究グループへの研究費助成」を活用致しました。この場をお借りして御礼申し上げます。

第 10 回年次大会（京都大会）の開催について

2021 年の日本デジタル教科書学会(JSDT)年次大会を、京都大学の百周年時計台記念館 2F にある、国際交流ホールにて開催予定です。日程は8月21日（土）～22日（日）と予定しております。

学会のホームページをリニューアルしました

当学会のホームページをリニューアルしました。ぜひ、下記の URL よりアクセスいただき、ご覧ください。

<http://js-dt.jp/>

本学会について	入会のご案内	学会誌投稿・審査規定	学会への申請一覧	学会図書館	年次大会・研究会
<h3>日本デジタル教科書学会へようこそ</h3> <p>「日本デジタル教科書学会」のホームページにご訪問いただきありがとうございます。 当学会の「発足の志」は、「デジタル教科書・教材やそれを活用した実践について、学術的に追究し、我が国の教育のこれからの発展に資すること」です。 デジタル教科書導入のためには、入念な学術的な検討が必要です。本学会では、実践者と研究者が協力して実践研究を行ったり、各種プロジェクトを立ち上げたりして、研究領域や職種の枠を超えた研究活動を推進して参ります。 研究者の方のみならず、現場の先生方、産業界の方、その他、趣旨に賛同いただけます様々な立場の方々からご入会いただければと思います。</p>				<p>会員専用ページ等はこちら</p>	
					
<h3>学会の発行物のお知らせ</h3> <p>日本デジタル教科書学会では、学会誌「デジタル教科書研究」（ISSN 2188-7748）や、「年次大会発表原稿集」（ISSN 2188-062X）等を公開しております。</p>					
				<p>本学会について</p>	
				<p>賛助会員</p>	
				<p>本学会について</p>	
				<p>会長あいさつ</p>	
				<p>委員会・役員一覧</p>	
				<p>発足の志</p>	
				<p>本学会のあゆみ</p>	
				<p>会則</p>	
				<p>お問合せ</p>	
				<p>著作権処理</p>	
				<p>FAQ</p>	
				<p>入会のご案内</p>	
				<p>学会誌投稿・審査規定</p>	
				<p>学会への申請一覧</p>	
				<p>研究費助成について</p>	